

KALS 大学院入試対策講座

専属チューターからのメッセージ

チュートリアル通信

【2020 年度秋期】税法科目免除 VOL.9



河合塾 KALS の大学院入試対策講座では、チューター制度を導入しています。チューターは当校の合格者 OB/OG を中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイド「サクセチュートリアル」や個別カウンセリングなどを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、税法科目免除・金田チューターからのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！



KALS チュートリアル通信 税法

検索

今回は、小論文と口頭試問の対策について少し考えてみようと思います！

小論文対策

● 小論文テストの目的

大学院受験で小論文が課されるのは、研究計画書と合わせて、修士論文を書く力があるのかを確認したいからです。具体的には、以下のような点を評価しています。配点が高いと思われる順に並べています。

解読力	資料や問題の意図をどの程度理解しているか。
意欲	どのような問題意識や主張を持つか。
構成力	問題意識や自分の考えをどのように構成するか。
発想力	個性的・独創的発想がどれだけ盛り込まれているか。
表現力	誤字・脱字、文字数、表現などがどの程度正確かつ豊かか。

このように、小論文にはいくつかの採点要素があります。未知のテーマなどに出会ったとき、何を問題と捉え、個人的な結論を見出し、意欲的かつ客観的にその結論に至った、その論述力が総合的に問われているといえます。考え方を変えると、小論文は客観テストではないので、もし設問の一部がわからなくても論述力のアピールをすることで目的が達成することもできる可能性がありますね！

● 過去問研究

基本的な対策は、過去問研究に尽きると思います。志望校などの過去問を収集し、模範解答を必ず作成してください。税法の基本原則や規定の説明、それに関する判例・判決、そして、それらを踏まえた自分の意見を 800~1000 字程度で簡潔にまとめる作業が基本となります。

用語の説明は、金子租税法や入門書を中心に作成してください。また、関連判例については、金子租税法の該当ページや講義のレジюмеまたは租税判例百選にある判例などを参考にしてください。

● 解答方法

模範解答ができたなら、実際に時間を測って回答してみましょう。解答するときには、いきなり書き始めず、

制限時間の1割程度の時間を割いて、「マッピング・メモ」「アウトライン」を作成しましょう。

(1)「マッピング・メモ」

書きたいことを単語で書き出す。十分書き出したら、関連するものは、線をつなぎ、重複するものは削除する。

(2)「アウトライン」

マッピング・メモを3つから4つ程度のグループに分け段落とする。その上で、書く順序を決める。

以上の準備をした上で、書き出しましょう。時々、マッピング・メモで書き出した単語などで漏れている重要なものがないかに気を付けましょう。

口頭試問対策

● 基本的対応

口頭試問では、多くの場合、研究計画書の内容や志望動機など出願書類の内容をベースに質問が行われます。まずは、志望動機、研究の動機及び研究内容について、それぞれ3分程度で説明ができるように準備をしておきます。そのうえで、想定される質問を広範に用意して模範解答を用意しておきましょう。

フレンドリーな雰囲気ですoftな質問をするところも多いようですが、質問に対しては、その試験官の方に向き直って、相手の目を見て回答しましょう。また、この研究テーマを選んだ理由を聞かれた場合には、「**個人的なきっかけ**」と「**社会に対しての貢献**」の2つについてそれぞれ述べられるように考えをまとめておきましょう。

● 難しい質問があった時の注意

試験官は、だれであっても困るような難しい質問を投げかけてその対応を見ることも良くあります。また、いくら想定問答を準備してもすべての質問をカバーできるわけではありませんので、準備をしていない質問もされる場合があります。

その際に注意すべきことは、回答できるかできないかではなく、その対応です。一般的に、わからない時は、相手から視線を外そうとし、困っている様子を見せることで、相手が助け舟を出すことを求めることが多いような印象を受けます。

こういった対応は、難しい問題にあたった時にそれに「立ち向かう」のか、「回避する」のかといったその受験生の傾向を表すことになりかねません。もちろん、修論を書く際には、問題に立ち向かうことが求められます。

質問が難しければ、(通常は、許しを請うように目を背けがちですので)深呼吸して、その試験官の目を直視しましょう。そして、「〇〇についてのご質問ですね。」などと考えながら質問を繰り返してみたりなど、解答ができないことはやむをえませんので、まずは、**質問の内容を理解している**ことをアピールしてください。

また、「少し考える時間をください。」と伝え、そのあとに「正確にはわかりませんが、現時点で私がわかる範囲でお答えしますと…。」と可能な範囲で回答することで、問題に立ち向かおうとする姿勢と同時に、冷静に論理的に考える思考回路を持っていることを表現することができるでしょう。

おわりに

そろそろ研究計画書が完成しつつあるかと思いますが、進捗はいかがでしょうか？

今の時期は、M2（大学院2年生）が修士論文を執筆している最中かと思われます。当時、修士論文を執筆していて思ったことは、

- ①なるべく早めに修士論文を執筆し始めたほうがいい
- ②資料は一つのファイルにまとめておくなど、きちんと整理しておいてほうがいい
- ③方向性に迷ったらすぐ指導教授に相談したほうがいい

の3点が重要ということです！この3点は、研究計画書の作成にとっても重要な点だと思います。研究計画書の場合は、指導教授が個別指導担当講師（黒須先生）にあたります。

①については、なるべく早めに取りかかったほうが見直し・修正する時間や、指導教授に見てもらう時間が増えるからです。方向性に迷ったとしても、それが提出期限よりもまだ前であれば、たくさん考える時間を作れるので軌道修正できます。

②は、資料を見返す時に資料を探す時間を削減したり、資料自体をなくすリスクがなくなるからです。

③は、事前に何度も指導教授に相談していれば、自分の進捗度や執筆している内容を指導教授が把握できるからです。中間報告がある際も、指導教授が自分の修論について理解していれば、指導教授やその他の教授から「え、こんな書いているの？知らなかった！」「このテーマはやめたほうがいいのかも」などといわれる可能性が少なく、お互いパニックにならずに済みます笑

修士論文または研究計画書を書くときは、この3点を思い出してみてください！

